

石川・能登半島地震に支援を

皆さんのご協力をお願いします



石川民医連で発行された
災害対策ニュース



1月1日午後4時10分、石川県能登半島地震は最大震度7を観測し、甚大な被害をもたらしました。堺市では目立った被害はありませんでしたが、29年前の阪神・淡路大震災を思い起こし不安になられた方もおられたのではないのでしょうか。

石川県では、発生から4週間が経過した1月29日現在、236人の死亡が確認され、安否不明者は19人と発表されています。寒さが厳しい避難所生活を過ごしている方は1万9000人を超え、避難生活の長期化で「災害関連死」の疑いで亡くなった方も確認されています。

以下、現地・石川民医連で発行された災害対策ニュースより現地の被災初期の状況を紹介します。

全日本民医連は、1月4日、情報収集と長期的

募金箱を設置しています



募金箱を設置しています

1月中の能登半島地震支援カンパについて

1月5日から取り組んだ能登半島地震支援カンパは1月末時点で67職場、友の会25支部、個人なども含めて95万3988円が寄せられました。第一弾として1月末で締めて、100万円を全日本民医連を通して現地に届けました。ご協力ありがとうございました。被害の大きさから息の長い支援が必要です。引き続きのご支援よろしくお祈りします。

な支援に向けて対策チームを派遣しました。オンラインで現地と情報交換を行い、断水のためにほとんどの方が市外へ避難しましたが、身寄りのない高齢者が残されていること、飲料用だけではなく生活に必要な水も不足していることなどが伝えられ、同仁会から石川民医連を通じて飲料水(600ℓ)を輪島診療所に送りました。各都道府県の民医連からは、激励のメッセージが届けられます。

1月中旬からは、県外の医師、看護師、薬剤師、事務、心理士が支援に入り、友の会会員さん宅の訪問を始めています。訪問先では、家屋のすべての扉が開かなくなり、建つていても常に傾いている状況のため引越す決断をした方や今後の不安から泣き出される方もおられるなど、医療・介護支援だけでなく、メンタルケアも含めて継続的な支援が必要な状況が報告されています。

同仁会は、全日本民医連を通じて要請にこたえて支援を送る準備を進めていますが、まず、被災地支援募金に取り組んでいます。各事業所の窓口に募金箱を設置していただきます。ご協力をお願いします。また、友の会事務局でも受け付けています。

*支援募金は全日本民医連を通じて被災地に届けます。

医療の場を暮らしとつなぐ 誰でも自由に弾けるピアノ 耳原総合病院

「まんながピアノプロジェクト」

音楽生演奏を通じて「ふれあう・つながる」一人ひとりにもっと自由な表現ができる余白、アートな時間を



ピアノを踊り場に移動しました。通院患者さんやご家族、職員の利用者が少しずつ増え、リハビリの時間にセラピストと弾かれる入院患者さんのお姿も。

また初めてのゲスト演奏会企画を2023年12月に2回開催、当院の環境音楽の作者である小松正史氏をお招きし、アルバム『いのちのそばに』の楽曲を生演奏がエントランスに響きました。

2回目は、当院の研修医でありサックスを演奏する杉義人先生と、ピアノ二スト石井智子さんお二

音楽を通して病院を訪ねるすべての方々に、創造的な場を提供することをコンセプトに昨年より検討してきた「まんながピアノ」。耳原総合病院の1階地域交流ゾーン（吹き抜け階段の踊り場）にアップライトピアノを設置し、いよいよ試験運用が始まりました。このピアノは新病院完

成時に地域の方より寄贈され、5年ほどみみはらホールでコーラスの練習のたびに響いていました。が、コロナ禍によってその音を聴くこともなくなっていました。

電子ピアノを置いて音量の確認やトリアルを重ね、11月より



ピアノトリアル中の通院患者さん



人のスペシャルコラボ演奏を披露していただきました。緊張感が漂いがちな病院の日常空間ですが、演奏会ではやさしい音色がふんわりと空気を包み込みました。立場を超え、演奏者と鑑賞者が共鳴し、小さな感動が届く温かいステージとなりました。ココロのまんながに琴線に響くような音楽を、たくさんの方へ継続してお届けできますように。

寄せられた感想

お歳をめされた方が「川の流れるように」を弾いていらっしやいました。義母がとても好きな歌で亡くなる直前にも聴いていたので思い出されました。ありがとうございました。

* この耳原病院での出会いはとても宝物のよう。苦しいところを通っても出会いで励まされます。2023年12月半ばからここにピアノを置いて下さり、このピアノは弾いてもすばらしい楽器と感じています。

* ありがたい病院です。感謝一杯です♪